

山口県公立大学法人評価委員会（第39回）の審議要旨

- 1 日 時 令和3年7月15日（木） 10:00～11:40
- 2 場 所 山口県立大学北キャンパス3号館3階 C301教室
- 3 出席委員 成富委員長、小野委員、首藤委員、早川委員（委員長以外50音順）
- 4 審議事項 令和2年度に係る法人の業務の実績に関する評価について
- 5 審議要旨 [● 委員 ◆ 委員長 □ 法人 △事務局]

● 地方がコロナで注目されている今、地方の中小企業には大企業にはない仕事のやりがいや夢がある。望む学生が県内就職できない理由について、具体的なものがあれば、私たち県内企業も何か対策を打てるのではと感じている。

□ 就職活動がオンラインで行われるようになり、予想以上に学生が県外企業にトライしたと思われる。オンライン上では、東京の企業も地方の企業も一覧情報の1つになってしまうため、利便さもある一方で実際の企業の魅力や個性が伝わりづらい。課題解決型の教育プログラムの中で、現場に赴いて企業との協働学習を行うことにより、会社の雰囲気や直に感じるなど、地元企業との絆づくりが重要であり、そのための様々な方策を検討すべきと考えている。大学リーグやまぐちなどを活用し、産業界、大学、行政が合わさって取り組んでいく必要がある。

また、マッチングの問題に加え、最近の若い世代は入社して3年以内に転職する率が全国的に高くなっているなど、状況を多面的に確認し、支援に繋げていく必要もあると考えている。

● コロナによる社会の変化に苦戦しながらも頑張っている地域の企業がたくさんあることを先生方に理解いただくとともに、企業と県と大学が一緒になって、地方に優秀な人材を引っ張ってこれるような取組を真剣に考えていかなければならない。

◆ デジタルとかIoT、DXなどが進められ、就職活動のオンライン化によって色々なことが可能となったが、結局は人と人との強い結びつきが大切であり、社会の厳しさも学びながら、自分の考えを持って実践や経験をしていくことが、県内定着には必要だと考える。

● 地元高校からの進学者について考えたとき、今後は、中学生や高校生の子どもたちに対する働きかけをしっかりとしていくことが方向性として必要ではないか。大学生や地元企業で働く、あるいは地元で起業している若者をメンターとして、いろいろな取組で高校生に関わってもらっているが、高校生や中学生は自分と世代の近い方々・先輩を見て、大変刺激を受けている。県立大学は、これまで多様な地域貢献に取り組み、学生や先生が地域に出ているが、そこで子どもたちとの関係構築にも力を入れ、県立大学という存在をアピールしていくことも必要ではないかと考える。

- 中学生や高校生に対し、県立大学を自分の進路として知ってもらう重要性は、認識している。高校生については、講師派遣やオープンキャンパスなどを実施しているが、中学生については特別なプログラムを実施しておらず、今後対応していきたい。
- 財務内容の改善に関する事項で、電話料金や宅配便料金などが減っているとのことだが、今年度も重点的な項目を設定して取り組まれようとしているのか。
- 電話料金については、半分以下に削減されたということで、大きな成果と考えている。他の項目については検討中であり、今後も継続して取り組んでまいりたい。
- ◆ 本などによる知識だけでなく、自分が実際に地域に行って経験を得ることによって、地域との距離が縮まると考えられる。地域貢献を軸にする大学においては、中学生くらいから長い期間にわたって地域でいろんな経験を積み重ねられるよう考えて行く必要がある。長年、地域貢献に取り組まれてきた県立大学において、地域貢献の成長曲線は、まだ伸びしろがあると考えるのか、飽和状態に近いと考えるのか。
- 県立大学は、地域をキャンパスとした教育に取り組んでおり、教室だけでなく、地域全体がキャンパスであるという発想で長年教育を実施してきた。社会福祉や看護栄養といった学部だけでなく、国際文化学部においても、学生にはキャンパスを出て学ぶことが当たり前という意識がある。加えて近年、課題解決型学習という発想が加わり、地域で何をどのように学ぶかが教育的な手法として構築されてきている。

基盤教育の改革にも取り組み、1・2年生において、しっかり地域の課題解決に取り組むために学外へ出ていくプログラムもスタートさせようとしており、本学の地域貢献は、まだまだ加速するあるいは追い風を受けている状況と認識している。
- 課題解決型学習が国において盛んに言われ、STEAM教育やデザイン思考などを取り入れ、文系の中でもイノベーションを起こせるような学生を教育することが必要とされており、教育のキーワードとなっている。企業や自治体の人たちと一緒に課題を考えたり、解決に向けたアイデアを出すことで、地域貢献と一体となった教育の実現につながると考える。
- ◆ 様々な知見を大学のカリキュラムに落とし込むことが求められているが、与えられた課題に与えられた知識で取り組む場合と異なり、課題そのものを見つけるには、地域の魅力を知った上で現状を俯瞰し、様々なものをつかみ取るが必要となる。AI等の普及も進むが、学生が思いを持って地域に関わるためには、県立大学の特色である、人と人が関わる部分の強みをさらに太くしていくことが重要である。
- 本学は既に様々な地域貢献に取り組んでいるが、結果が出せるようなプロジェクトをつくり、参画した学生や教員に小さくてもいいので成功事例を経験させ、自分たちが地域課題を解決したという場をつくるのが、卒業生が県内に残ることにもつながると考えている。
- 最近、子育てのために地元に戻る若い30代や40代の方が見受けられるようになった。県立大学は女性の学生が多い大学でもあるため、子育てしやすい地方の在り方などについて大学をあげて取り組めば、少し時間はかかるかもしれないが、山口県に人が集まるという形ができるのではと考える。
- ◆ どの地域も問題を抱えていると言われているが、今議論いただいた内容を踏まえ、先進的な事例を積み重ねることにより、県立大学モデルみたいなものをつくっていただけたらと期待する。

【まとめ】

◆ 各委員から多くの御意見をいただいたところであり、審議事項については次回への継続審議とする。

△ 今後、事務局において委員の意見を踏まえて評価書の素案を作成し、次回の評価委員会で審議をお願いしたいと考えているので、各委員の御協力をお願いします。

以 上